

はじめに

今日、日本社会の様々な領域において構造的な変化が進行しています。特に産業や経済の分野においてはその変容の度合いが著しく大きく、雇用形態の多様化・流動化にも直結しています。また、学校から職業への移行プロセスに問題を抱える若者が増え、社会問題ともなっている状況です。

このような中で、一人一人が「生きる力」を身に付け、明確な目的意識を持って日々の学校生活に取り組みながら、主体的に自己の進路を選択・決定できる能力を高め、しっかりとした勤労観・職業観を形成し、激しい社会の変化の中で将来直面するであろう様々な課題に対応しつつ社会人・職業人として自立していくことができるようにするキャリア教育の推進が強く求められています。

「キャリア教育」という用語が文部科学行政関連の審議会報告等で初めて登場したのは、中央教育審議会答申「初等中等教育と高等教育との接続の改善について（平成11年12月）」においてでした。本答申では「学校教育と職業生活との接続」の改善を図るために、小学校段階から発達段階に応じてキャリア教育を実施する必要があると提言されています。

その後、様々なキャリア教育推進施策が展開されましたが、平成18年におよそ60年ぶりに改正された教育基本法においては、「各個人の有する能力を伸ばしつつ社会において自立的に生きる基礎を培う」ことが、義務教育の目的の一部に位置付けられました。翌年改正された学校教育法では、新たに設けられた義務教育の目標の一つとして「職業についての基礎的な知識と技能、勤労を重んずる態度及び個性に応じて将来の進路を選択する能力を養うこと」が定められ、小学校からの体系的なキャリア教育実践に対する法的根拠が整えられたところです。

また、平成20年1月の中央教育審議会答申「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善について」においても、新しい学習指導要領でのキャリア教育の充実が求められ、同年3月には本答申に基づいて小学校学習指導要領が改訂されました。

更に、平成20年7月1日には「教育振興基本計画」が閣議決定され、今後5年間（平成20～24年度）に取り組むべき施策の一つとして「関係府省の連携により、小学校段階からのキャリア教育を推進する」ことが挙げられています。

これらを踏まえ、同年12月には、文部科学大臣が中央教育審議会に対して「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」諮問し、この1月に答申がとりまとめられました。

小学校におけるキャリア教育は、初等教育から高等教育に至る系統的・組織的なキャリア教育の基盤として極めて重要な意味を持ちます。文部科学省では、その重要性にかんがみ平成22年1月に『小学校キャリア教育の手引き』を発行しましたが、この1月の中央教育審議会答申を踏まえて改訂し、このたび広く市販する運びとなりました。本書が、各小学校はもとより、関心をお持ちの多くの方々に広く活用され、キャリア教育の指導内容・指導方法の充実に役立てられることを念願しております。

末尾となりましたが、本書の作成に当たり御尽力を賜りました作成協力者及び関係の皆様へ深くお礼申し上げます。

平成23年5月

文部科学省初等中等教育局長
山 中 伸 一

CONTENTS

はじめに

第1章

キャリア教育とは何か

第1節 キャリア教育の必要性と意義	1
1 キャリア教育が提唱された背景	1
(1)子どもたちをめぐる課題	
(2)キャリア教育の提唱と経緯	
2 キャリア教育の定義	6
(1)キャリアとは	
(2)キャリア発達とは	
(3)キャリア教育で育成すべき力 —「基礎的・汎用的能力」とは—	
(4)今後のキャリア教育における勤労観・ 職業観の位置付け	
3 キャリア教育の目標	18
(1)小学校6年間を見通した目標設定	
(2)キャリア発達を踏まえた目標設定	
4 キャリア教育に期待されること	22
(1)「生きる力」の理念を実現する視点から	
(2)いわゆる「PISA型学力」の視点から	
(3)言語活動の充実という視点から	
5 キャリア教育の意義	23
第2節 中学校におけるキャリア教育	25
(1)キャリア教育のねらいと関連する主な 内容(活動例)	26
(2)中学校における確かな成長を促す職場 体験活動の推進	28

第2章

キャリア教育推進のために

第1節 校内組織の整備	33
1 キャリア教育の推進と校長の役割	33
2 校内推進体制の整備	34
(1)児童に対する指導体制	
(2)実践を支える運営体制	
3 教員研修	36
第2節 全体計画の作成	39
1 全体計画の基本的な考え方	39
2 各学校において定めるキャリア教育の目標	40
(1)生活環境を考慮した目標設定の工夫	
(2)学校規模を考慮した目標設定の工夫	
(3)生徒指導上の問題を抱えている学校における目 標設定の工夫	
3 育成したい能力・態度の設定	42
4 教育内容・方法の明確化	46
5 各教科等との関連	46
第3節 年間指導計画の作成	48
1 年間指導計画の基本的な考え方	48
2 年間指導計画・単元指導計画の作成	48
(1)年間指導計画作成の手順	
(2)年間指導計画作成の留意点	
(3)年間指導計画作成の効果	
(4)各教科と年間指導計画	
(5)道徳と年間指導計画	
(6)総合的な学習の時間と年間指導計画	
(7)特別活動と年間指導計画	
(8)各教科等を横断的にみた年間指導計画(一覧)	
第4節 連携について	61
1 連携の基本的な考え方	61
2 家庭・保護者との連携	63
(1)家庭・保護者に期待される役割	
(2)連携の在り方	
3 地域・働く人との連携	65
(1)地域・働く人に期待される役割	
(2)企業・産業界に期待される役割	
(3)連携の効果	
4 学校間(異校種間)連携	67
(1)学校間連携の考え方	
(2)学校間連携の活動例	
(3)学校間連携の効果	
第5節 評価	69
1 評価の基本的な考え方	69
2 児童の学習状況の評価	69
(1)評価の視点	
(2)評価の方法	
3 教育活動の評価と改善	70
(1)教育活動の評価と改善の視点	
(2)教育活動の改善の方法	
4 各学校の指導計画の評価と改善	72
(1)指導計画の評価と改善の視点	
(2)指導計画の改善の方法	

第3章

小学校におけるキャリア教育

第1節 小学校におけるキャリア発達 77

1 各学年団におけるキャリア発達のとらえ方 77

2 各学校におけるキャリア発達の課題の具
体的なとらえ方 78

第2節 教育課程とのかかわりにお けるキャリア教育 80

1 学力向上にキャリア教育の視点を生かす取組 80

2 道徳の時間にキャリア教育の視点を生かす
取組 83

3 総合的な学習の時間にキャリア教育の視点
を生かす取組 85

4 特別活動にキャリア教育の視点を生かす取組 87

5 キャリア教育を生かして効果を上げた学校
での取組 92

<事例1>学力向上プロジェクトの効果を
高めたキャリア教育

<事例2>キャリア教育を通して校内研修
の活性化を図る

<事例3>6年間をかけて系統的に取り組む
キャリア教育

<事例4>異校種間の学びのつながりを意
識したキャリア教育

第4章

各学年段階におけるキャリア教育

低学年の発達課題と実践のポイント 111

第1学年 生活 114
道徳

第1・2学年 特別活動・学級活動 118

第2学年 生活 120
道徳
道徳

中学年の発達課題と実践のポイント 127

第3学年 総合的な学習の時間 130
特別活動・学級活動

第4学年 国語 134
社会
理科
体育
道徳

高学年の発達課題と実践のポイント 147

第5学年 社会 150
体育
道徳
道徳

外国語活動
総合的な学習の時間

第6学年 国語 162
社会
家庭
外国語活動

総合的な学習の時間
特別活動・学級活動

全校児童 特別活動・学校行事 174

自作資料 176

P179

FAQ

P185

参考資料

第1章

第2章

第3章

第4章

FAQ

参考資料